


 巻頭言

新年を迎えて



一般社団法人 日本植物防疫協会 専務理事 **とみ やす のり 富 田 恭 範**

謹んで新春のお慶びを申し上げます。昨年5月に新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことから、各自が感染症対策をしながらも日常生活の普段が戻ってきました。そのため、協会の新農薬実用化試験の成績検討会やシンポジウムなどは対面での開催とし、情報交換会も新型コロナウイルス発症前と同様な方法で開催しました。

約3年間行動規制があったため、協会主催のシンポジウム、植物防疫研修会、新農薬実用化試験成績検討会等においても、当初は中止やオンラインによる開催、その後、一部対面のハイブリッドによる開催など新たな方法の導入も行ってきました。

人間もやはり病気との闘いであることは歴史が語ってくれています。診断、手術、ワクチン、治療薬など日々進歩してきており、病気への対応により寿命も延伸してきています。我々が相手とする農作物の病害虫への対応はどうでしょうか。神頼みの時代から鯨油を使った防除、さらに農薬の開発により病害虫防除は画期的に進展し、現在は安全性が確保された様々な農薬による病害虫防除が行われています。

技術の進歩というのは、振り返ってみると格段に進んだことを自覚させられるときがあります。現在こそあたりまえの携帯電話ですが、筆者が学童時にテレビで熱心に見ていた「ウルトラマン」や「ウルトラセブン」に登場した科学特捜隊とウルトラ警備隊がそれぞれ使用していた流星バッチ（アンテナが伸びる）、ビデオシーバー（小型通信機）はまさしく携帯電話の発想となっていました。ただし、これからの科学技術の進歩が、何十年後に人類のために役に立っていくのかについては最近少し疑問を感じています。科学技術の進歩が必ず人類の平和と繁栄のために活かされることを強く祈念してやみません。

今まででも言われてきましたが、我が国の食糧生産について、もっと本気で考えていく必要があるのではないのでしょうか。食料自給率の向上が叫ばれてから久しいですが、安定した食料生産を支えるためには病害虫防除、その中心となる農薬の存在は大きいと考えます。

農薬の再評価制度が本格稼働してきましたが、不透明な部分も多く、農薬会社の方々はいろいろと苦労されていると耳にします。新しいことを始めると想定していないいろいろなことが起こるのは常ですが、「検査のための検査」にならないようにその目的を明確にし、農薬の安全性をこれまで以上に担保できることを国民に示し、説明していく必要があると思います。そのためにも、農薬にかかわる人はもちろん、植物防疫にかかわる人達が

正しい情報を共有し、正しい方向に進んでいくことを切望します。

本年、協会では、正しい情報を迅速に発信していく方法をさらに進めることを考えています。なお、当協会では2023年度の事業計画として、

1. 病害虫防除の主幹となる農薬の登録のための試験を国・都道府県、農薬メーカー、防除機メーカー等の植物防疫関係者との強固な協力体制を維持しつつ着実に実施する。
2. 農薬の再評価に合わせ導入された農薬のミツバチおよび使用者への新評価制度に対応した委託試験を確実に進める。
3. 委託試験の実施主体である都道府県等の試験機関と協力し、病害虫防除に関する技術研修会を開催する。

という三つの柱を重点課題として取り組んできました。このうち、IPMの一層の推進が求められる中、生物農薬を主としたIPMに組み込むことのできる新しい防除資材等を含む技術の評価する仕組みを構築するという方針から、「IPM資材連絡会議」を2023年度に立ち上げ、天敵や微生物農薬等の試験成績を一括して検討するIPM資材連絡試験成績検討会を12月11日に開催しました。病害試験については、微生物農薬等の試験実施に当たり留意すべき事項に関する説明会を実施するとともに試験依頼メーカーから供試する微生物農薬等の特徴などについて、試験担当者に向けて説明できる機会を設けました。

当協会では、1994年（平成6年）度に天敵製剤・微生物農薬等を対象とした試験成績を一括して検討できるようにするため、生物農薬成績検討会（病害分野・虫害分野）を立ち上げ、2018年（平成30年）度まで開催してきましたが、検討する農薬数が減少したため、各地域の成績検討会や作物別の成績検討会の中で成績を検討する形に変更し、生物農薬成績検討会を廃止しました。しかし、近年、新施策の影響等もあり、再び天敵や微生物農薬等の試験依頼数が急激に増加してきています。そこで、今後、IPMに活用できる農薬以外の防除資材等も考えられることから、「IPM資材連絡会議」を新たに立ち上げることとしました。今後、この連絡会議で取り上げていく資材については、関係する皆様の要望を踏まえ取り上げていくことを考えています。

本年も皆様からの意見を伺いながら前向きに事業を推進してまいりたいと思っておりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。